



アンネのバラ

吉高人権だより

2022年 8月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

理科 河野 薫

宇和島地区生徒人権委員会交流学習会

8月1日(月)、宇和島市番城福祉会館で、南宇和高校、宇和島東高校津島分校、宇和島東高校、宇和島南中等教育学校、宇和島水産高校から16名の人権委員が参加して宇和島地区生徒人権委員会交流学習会が行われました。

研修会は前半、宇和特別支援学校の深井教頭先生から「障がい者問題について考える」をテーマに講義を受けました。

その中で、以下の4つの質問を軸に、障がい者問題について考えました。

- ①あなたにとって、障がいとはなんですか？
- ②周りにハンディを抱えた友達がいたら、あなたはどのような対応ができますか？
- ③あなたの長所はどのようなところですか？短所はどのようなところですか？
- ④あなたは自分のことが好きですか？

後半は、各学校の人権委員会の取組について発表を行いました。吉田高校はホームルーム活動の中で、宇和特別支援学校の生徒とオンラインで交流したことについて発表しました。宇和島南中等教育学校からは、ウクライナ、ロシアについて関心をもってもらうために、ひまわりを育てている活動、子供食堂ボランティア、ひとりぼっちをつくらぬ活動についての発表がありました。宇和島東高校からは、差別に対してどのような行動ができるか、独自の「宇東人権宣言」、人権詩、人権標語の作成についての発表がありました。宇和島水産高校からは人権だよりを学期ごとに各学年が担当するという発表がありました。南宇和校高校からは挨拶運動、面接試験における人権問題、全校集会で北朝鮮による拉致問題について発表したとの報告がありました。宇和島東高校津島分校からは、新型コロナウイルス感染症が広がる前までは、人権をテーマにした研修旅行に参加していたと発表がありました。



生徒の感想

交流会に参加して、改めて考えることが多かったです。研修1の「障がい者問題を考える」では中学生の時のことを思い出しました。中学生の時、特別支援学級の友達が2人いました。自分は昼休みになるとよく2人の所に遊びに行きました。2人の性格は正反対でした。しかし、2人とも尊重し合っているのです。仲が良かったです。部活動も同じで、一緒に活動していました。2人が一生懸命頑張っている姿を見て、自分も頑張ろうと思いました。

各学校の取組の発表では、吉田高校で行っていること以外の取組も多くあり、吉田高校でも取り組みたいものもあり、参考にしたいと思いました。今回の交流研修会では、自分が見えていなかったことが分かりました。とてもよい研修会でした。

昔から障がいのある人は学校に行くことができていると思っていたけれど、昔は、障がいがあるから学校はダメ、店に入るのもダメ、というときがあったというのが印象に残っています。

吉田高校以外の人権委員の活動も知ることができてよかったです。これからいろいろな方々と出会い、いろいろな経験をするので、一人一人の個性をしっかり受けとって、どうしたらうまくいくのか、どうしたらみんなが参加できるのか考え、行動していきたいと思います。

いろいろな学校の取組を人権委員だけでなく、学校内にも知ってもらい、広げていけるような活動をしていきたいと思います。知らないことが多いのもっと学んでいきたいと思います。

今、私たちがしていることは無駄じゃないことが分かりました。それぞれの学校で行っている取組が違うことが分かり、私たちには、まだ他にもできるんだと思いました。これからも、まだ他にできることはないか考え、実行していきたいと思いました。

